2022年3月12日

春ノ翔一歩後退

紙相撲新聞
第155回本場所
八～九日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

春ノ翔、初顔鉄甲に敗れ2敗目
大神楽が1敗で単独トップに

【第百五十五回本場所八日～九日目】

春を感じさせる陽気となった3月12日に八日目と九日目が開催された。九日目を終えて、関脇大神楽が8勝1敗で優勝争いの単独トップに立った。これを2敗で、横綱春ノ翔、大関千代鈴、小結出羽翼の三役力士3人が追う展開となった。

3敗力士にも数字上ではまだ優勝の可能性はあるが、まずこの4力士による優勝争いになると言って良さそうだ。ちなみに3敗は、横綱美空富士、平幕の鉄甲、喜乃郷、月山、雪若丸、寶蔵、生駒山の7人。なお、七日目を終えて3勝4敗と黒星が先行した横綱若ノ嶋と初日から7連敗で大関からの陥落が決まった大関佐賀ノ海が八日目から休場となった。

関脇大神楽は七日目を終えて、五日目に出羽翼に敗れたのみの1敗。八日目は初顔の喜乃郷戦。「初顔ってのは嫌だよね。」と磯ノ海親方。喜乃郷は入幕3場所目だが前頭六枚目に上がって今や九十九部屋の部屋頭。ここまで5勝2敗とこの一番に勝ち越しを賭けたが相撲は大神楽が喜乃郷を寄せつけず、寄り切りで勝った。

↑九日目、優勝争いのトップを走る横綱春ノ翔は入幕３場所目の新鋭鉄甲を圧倒して押し込むが、まさかの落とし穴、引き落しに敗れた。

↑九日目、大神楽は英筏を寄り切り、1敗堅守。結びの一番で春ノ翔が鉄甲に敗れたため、単独で優勝争いのトップに踊り出た。

九日目は、結びで自己最高位の東四枚目に上がってきた入幕3場所目の鉄甲と対戦。「いやあ、結びの一番で取るところまで上がってきたというのは感無量ですねェ」と愛弟子が結びの土俵に上がる姿を見て感慨にふける勝間田親方。

まさか優勝争いの先頭を走る横綱と九日目に対戦するとは思いもよらなかっただろう。幸か不幸か、若ノ嶋と佐賀ノ海の休場で、対戦のお鉢が回ってきた格好だ。「初顔だけど、ここは春ノ翔だろうよ！」と友砂親方。

春ノ翔○（押し出し）●若　巨

横綱春ノ翔は初日から危なげない相撲で6連勝を飾り、今場所は春ノ翔かと思われたが、七日目に小結烏帽子岳にまさかの初黒星を喫した。連敗はしないと臨んだ八日目の対戦相手は元小結の若巨。若巨とは2度目の対戦だったが、右のど輪でぐいぐいと押し込み、そのまま押し出す力相撲で1敗を守った。

九日目は英筏との一番。大神楽は差し手争いの攻防から浅く左を差すとその まま英筏を正面土俵に寄り切って8勝1敗と1敗を守り、優勝戦線のトップに躍り出た。

喜乃郷●（寄り切り）○大神楽

一敗　大神楽
二敗　春ノ翔　千代鈴　出羽翼

「でも初顔だし、紙相撲は何が起こるかわからないからね。」と桐壺親方。

相撲は桐壺親方が言うように、左を深く差した春ノ翔が前のめりとなって鉄甲に引き落とされて2敗目を喫した。「これは金星、いや大金星だよ～！」と叫ぶ鹿賀乃戸親方を横目に、優勝争いの単独トップに大神楽が立ってにんまりの磯ノ海親方だった。

横綱美空富士は七日目を終えて4勝3敗と白星一つ先行。八日目は英筏戦。くせ者の英筏相手にどういった相撲を取るのか注目を集めたが、左からうまく攻めて英筏に相撲を取らせずに快勝した。取組み後に桐壺親方が明かしてくれたところによると「もし美空が八日目に負けたら引退も考えていた」が「でも、勝っちゃったからなぁ。」とのこと。そういった意味では美空も背水の陣で臨んでいて、一番一番を必死に取っているということなのだろう。

英　筏●（寄り切り）○美空富

続く九日目は過去の対戦成績で7勝1敗と圧倒している鬼ヶ嶽と対戦だったが、取り直し後の相撲で、相撲には負けていたが痩せたのが功を奏してか勝負で勝って勝ち越しを決め、桐壺親方を安堵させた。

美空富○（引き落し）●鬼ヶ嶽

大関千代鈴はここまで5勝2敗と勝ち越しまであと1勝。八日目は初顔の鉄甲を圧倒し

千代鈴○（寄り切り）●鉄　甲

千代鈴○（寄り切り）●鹿富士